

# 家庭教育通信

10歳からの子育て  
～思春期の入口に立つわが子～ 7

第55号 平成29年5月11日発行

## 「また、なくしたの？」

朝、家族みんなが忙しく、余裕のない時に限って、「お母さん、お父さん、〇〇知らない？」。文房具や宿題プリント、図書館の貸出カード、自転車の鍵、どうしてすぐなくすの？

ドラえもんの便利な道具に「なくし物取り寄せ機」があるのをご存知ですか。道具のコードを首にかけ、なくした物をイメージして念じると、その物のありかが浮かんでくるという優れ物です。

探し物が見つからないという経験は誰にもあります。

どうして物をなくすのでしょうか。「どうでもいいと思っているの？」「大切だと思っていないからなくしても平気なの？」ではありません。こどもは「つい、うっかり」「何気なく置いてしまったら分からなくなった」ということが多いのだと思います。

### 置き場所を決める

学校では机の中に道具箱を並べて入れ引き出しのように使ったり、ロッカーの棚の上下にランドセルや体育着を分けて入れたりするなど約束事を決めています。机の中の道具箱を引き出してみると、中身がごちゃごちゃになっている子もいます。決められたからといってできるものではありません。

大切なことは物をなくしがちな子が、自分で物の置き場所を決め、整理整頓することが気持ち良いと感じることです。10歳からの子にはそれができます。自分が決めたときのこどもなりのルールを思い出し、その場所に置く習慣が身に付けば、物は見つけやすくなります。

### 一緒に片付ける

物をなくさないように「片付けよう」と口頭で伝えることはもちろんですが、なかなかできないこどもに寄り添いながら一緒に置き場を決めたり、大人がやってみせたりして、こどもができるようになるまで見守ることがとても大切です。子育ては、時に面倒で時間がかかりますが、こどもが失敗したときこそ、親の出番です。なくした物をいっしょに探しながら、次はなくさないようにしようねと前に決めたルールを思い出したり、代替りのルールを一緒に作ったりしましょう。

こどもの失敗につきあいながら子育てを楽しんでいただきたいと思います。

庶務課社会教育担当

TEL (3647) 9676